

## 平成30年度 蓮田ブランド推進協議会第2回会議録

開催日時	平成30年9月14日（金） 午後3時30分～17時15分		
開会場所	中央公民館第3会議室		
出席委員 状況	嶋田 清司 会長 金子 温 委員 加藤 達雄 委員 山田 慎太郎 委員 関口 亜美 委員 諸 秀幸 委員	齋藤 正 委員 時光 一郎 委員 岩岸 悟 委員 （欠 席） 小林 謙二 副会長	（蓮田市） 寺内正明商工課長（司会） 関根政幸商工課副主幹 尾崎祐貴商工課主事  山田百合子政策調整課長
傍聴者	0名		
会議内容  1 開 会 寺内商工課長司会進行（午後3時30分から）  2 会長あいさつ 嶋田会長のあいさつ  2 議 題 <b>（1）蓮田ブランドについての検討（2）その他</b> 資料①地域ブランド実践者必携 GUIDE BOOK（事務局より） ②蓮田の主な地域資源（事務局より） ③じゃらん宿泊旅行調査2018「埼玉県」（岩岸委員より） ④地域ブランド調査2017（岩岸委員より） ⑤平成28年度・29年度市町村別観光入込客数（岩岸委員より）  （初めに事務局から資料①、②について説明。その後、意見交換）  嶋田会長：事務局から提示された資料②を見て、各委員から意見をいただきたい。  加藤委員：前回の会議でも取り上げたが雅楽谷の森フェスティバルについて、以前実行委員長をした時にメディア（NHK）へ取材依頼をしたが残念ながら取り上げてもらえなかった。取り上げてもらえれば蓮田の名前が広まったと思う。また、「暮らし」で災害が少ないとある。熊谷市などは猛暑の時には連日取り上げられている。災害が少ないということをPRしていくのもいいのではないかと思う。またそれが蓮田の魅力の1つでもあると思う。あと、「人」では笛木優子さんが「HASUDA CITY」と書かれたTシャツを着てテレビに出ていて市民とも触れ合う機会もある。コンタクトをとって蓮田をPRしてもらいたいのではないかと思った。また、「歴史」の中で武州鉄道跡に興味を持った。もし、跡を見ることができれば見てみたいと思った。			

嶋田会長：雅楽谷の森フェスティバルの概要についてもう少し詳しく話してもらいたい。

加藤委員：雅楽谷の森というのはなく、黒浜沼、黒浜貝塚等の地域一体の総称で、その自然を守ろう、また、出土された縄文文化をPRしようという目的で10年前から始まった。市役所近辺や東埼玉病院近辺で先祖が「飲めや歌えや」の宴を開いていたのを、現代によみがえらせようということで「音」、「食」、「学」の3つの村で構成されている。「音」の村では音楽のステージ、「食」の村では市内の飲食店が一堂に会したグルメ村、「学」の村では、火おこし体験や黒浜貝塚探検ツアーなど縄文文化を体感でき、ファミリーで楽しめる画期的なイベントで15,000人の来客数があり蓮田の3大祭りにもなっている。主催は商工会青年部と蓮田青年会議所となっている。

山田委員：岩岸委員の資料の確認をしたい。市町村別観光入込客数の数字は実績なのか予測なのか。また、魅力度上位ランキングについてどのような基準でランク付けをしているのか教えて欲しい。

岩岸委員：入込客数の数字は実績値となっている。また、魅力度については100項目くらいあって全国のユーザーがネットを通してポイント付けをしている。残念ながら埼玉県はかなり低い順位となっている。また、残念ながら、市町村ランキングでも埼玉県の市町村はランクインしていない。また、今日は持ってきていないが愛着度ランキングというものもあって、埼玉県は最下位となっている。

山田委員：ブランド化して宿泊者を増やすのか、魅力ある製品があるまちとするのか、既存の住民の満足度をあげるとともにこれから蓮田に住んでもらう人を増やしていくのかによって、ブランド化の切り口が全然違ってくると思う。どの切り口でやっていくかを決め、それにあったやり方で進めていくのがよいと思う。同年代も蓮田から近隣の市町村へ出て行ってしまっている人が多いが、理由を聞くと家賃が安いからという理由が多い。それを超えられるような何かがあれば蓮田に戻ってきてくれたり、引っ越してきてくれる人もでてくると思う。私としてはそこが最終的なゴールだと思っているが、インバウンド狙いでいくか蓮田マラソンや雅楽谷の森フェスティバルのようなイベントにスポットをあて宿泊施設を充実させて宿泊者を増やしていくかということを皆と考えていければと思っている。

時光委員：グルメで神亀のお酒があるがとても有名である。商工会の委員会にも所属しているが岩崎食品のうどんや、梨のアイスや梨のコンポートなどの特産品である梨を加工した商品もある。食についていろいろあると思うのでどうブランド化していくのが課題だと思う。あと、「暮らし」のところで高齢化率が高いとある。ネガティブな印象もあるが、地域の振興・発展の担い手として活動したい元気な高齢者も多いのでどう組織化し、活躍してもらおうかというのを考えていくのもよいのではないかと。高齢化率が高いということ逆手にとるという発想があってもいいのではないかと思う。また、武州鉄道跡も気になる。鉄道ファンも多いことからこれもいい素材になると思う。

関口委員：イベントの蓮田ひまわり畑はSNSでかなり拡散され大勢の人が来ていると聞いている。はすだ Future プロジェクトは映画製作の活動をしているが、映画のロケ地など蓮田の魅力的な場所をPRしていくこともできるのではないか。ただ、ひまわり畑にしてもロケ地にしてもまだ浅いと感じている。雅楽谷の森フェスティバルは歴史的な背景があって、きっかけがあってということがあがるが、ブランド化した時に背景的なものがあるってなぜブランド化しているのかという明確なコンセプトがあったほうがいいと思う。きれいだからとか新しく作ったからというだけではブランド化しても深みがないと思う。PRしたいだけになってしまうと思う。

諸 委員：この資料を見てまだまだ知らないことが多いと感じたが、個人的には黒浜貝塚に注目している。専門的な知識を持っている人であれば日本全国から食いついてくるのではないかと感じている。あとは、はまぐりラーメンも非常に気になっている。これだけ幅広い地域資源があるので、内外にPRすることで交流人口を増やしていくことができると思う。地域創生のプログラムに携わっているが、食にしてもイベントにしてもそこを選ぶストーリー性があると周りに共感してもらうことができるのではないかと思う。

岩岸委員：黒浜貝塚は国指定となっており外向けに対するインパクトが大きいと思う。隣町に住んでいるがイベントは正直あまり知らなかった。もう少し上手く発信できるといいと思う。自然は豊富で訴求力がある。「梨」は蓮田、白岡は有名で時期になるとお土産用に買いに行っても売っていなかったという話も結構聞く。酒蔵は埼玉県で35蔵ありそのうち蓮田には2蔵ある。埼玉は酒の出荷量で全国4位か5位だったと思う。清龍酒造は蔵見学をやっていて全国から人が来ている。一度行くとリピーターが多いと聞いている。

加藤委員：2月に商工会青年部で清龍酒造に工場見学に行ったが、食事をしながらライブをやっていて、他の地域から来た人に蓮田の人はもっと来ないのかと聞かれた。本当に魅力的な場所だと思う。

岩岸委員：あと「食」で呉汁があるがこれはどういったものか？

寺内課長：大豆をすりおろしたものを味噌汁に混ぜたようなもので、以前各家庭で結構飲まれていた。蓮田の飲食店でB級グルメ的なものとして売り出そうとする話もあった。その後、あまり進まずそのままになってしまった。作るのに結構手間がかかるがその割に評判がイマイチだったと聞いている。

岩岸委員：ちょこたび埼玉という情報誌で埼玉のグルメを探していて、こういったB級グルメ的なものは掲載すれば結構興味を引くものだ。あと蓮田で圧倒的に強いのは蓮田サービスエリアではないか。誰もが立ち寄る場所で蓮田という名前をほとんどの人が知っていると思うので、ここをうまく使えるといいのではないかと思う。あと、補足だが、物産観光協会では日本版DMOをやっていて地域活性化を進めているが、その中で調査業務もやっている。じゃらんの宿泊調査の中で埼玉県は47位と最下位となっている。そして、宿泊者の

男女構成だが全体的には女性が多い。埼玉県では男性客の方が多く、ビジネスマンの宿泊が多いためである。観光としての魅力は残念ながら低い状況となっている。年代別構成でも50代以降の年齢層が多いが、埼玉県ではどちらかというと若い年代が多い。やはりビジネス向けの方が多いからである。いかに観光としての魅力が少ないかを物語っているといえるのではないか。ただ、居住地エリアの項目があるが、県内や首都圏からが多い。首都圏のマーケットは4,000万人と言われていてその1%の宿泊者でも40万人となる。あまりハードルを高くしなくても少し頑張ればそここの成果がでると思う。また、宿泊エリアでは秩父地方や川越などが圧倒的に多い。宿泊施設が多いということでこのような結果となるが、宿泊する場所があれば他の地域の割合も上がってくる。

このような客観的な指標を見ていくと分かりやすいのではないかと思います。

齋藤委員：資料を見て全然蓮田について知らないんだということを感じた。歴史についてはほとんど知らなかった。ただいろいろあるので、鉄道マニアや歴女とか言われているので、上手に打ち出していけば、歴史・文化・芸術で人を呼び込む余地はあるのではないかと感じた。イベントについては、どこもやっているのもう少し珍しいものがないと中々難しい面もあるのではないかと思います。自然・農産物・グルメについては来て観光するというよりは住めばよいところという感じである。都会からのアクセスも良く緑が豊かで治安もよい災害も少ないということで住む環境としては非常によいところである。そのうえで、医療面などでよいところがあれば、住んでみたいと思ってもらえると思う。観光地としてよりも「住みたいね」と感じる要素があると感じた。あと気を引くということでは、B級グルメで「はすだこ」や「はまぐりラーメン」などもあるので、もう少し何とかなると良いと思う。あと、ゆるキャラのはすぴいも人気で最近も読売新聞で355通の夏の応援ハガキがきたとの報道もあった。もっとマスコミを上手く活用すればいいと思う。先ほど、蓮田サービスエリアの話もあったがみんな知っている。これを上手く活用していけば観光というよりも通過点かも知れないが市内にお金を落としてもらえ。これら色々な資源があるので上手く活用していければよいのではないかと感じた。

金子委員：梨の生産者、生産量ともに減ってきている。キウイでは平野の渋谷農園が大々的に色々な商品を作っている。最近では北海道産牛乳を使用したアイスを販売している。また、農協では梨カレーというのを作っている。サービスエリアで販売しているがかなり売れている。梨アイスなども開発されているので、こういったものの他、梨を使った商品を開発できれば蓮田の梨の注目度がアップしていくのではないかと感じた。農協では最近、青パパイヤを進めている。梨をやめてしまった農家に勧めていて、観光につながる取り組みを進めている。また、梨は技術職なので高齢や体を壊して梨をやめてしまってもすぐに継ぐのは難しい。そこで、農協ではミトベ塾という塾をやって農家の育成も少しづつだがやっている。

嶋田会長：各々の意見を言ってもらい参考になったと思うが、それぞれの意見についてフリーな形で質問したり意見があればお願いしたい。

加藤委員：蓮田サービスエリアだが、やはり一番魅力的な場所だと思う。また、先ほど宿泊場所の話があったが、以前はいくつかあったが今は何件かしかない。足柄のサービスエリアでは温泉があったり、グランピングがあったり手ぶらでバーベキューができたという事で注目されている。蓮田のサービスエリアも、中で宿泊できる施設を作ってもいいのではないかと思った。

岩岸委員：蓮田には古民家みたいなものはあるのか？古民家は今一番人気がある。行政からの補助金もあつたりする場合もある。蓮田は宿泊施設があまりないので、滞留時間があまり多くない。

関口委員：私が経営しているお店は元々は蔵だったところで、その横に人が以前住んでいた大きな母屋がある。ただ、修繕が必要なくらい傾いてしまっている。古い農家が残っているが、古民家の魅力といえば立派な梁だったり、素材だったりということだと思うので、手が入ったほうがいいのか、逆に手が入ってしまったものを古民家といえるのかという感じもする。

嶋田委員：民泊も開始されたことだし、チャンスといえばチャンスなのかもしれない。

岩岸委員：7月にセミナーがあり、熊野古道に行ってきた。世界遺産に登録された場所だが、まちの活性化が最終目標になっている。そこにある古民家もそれほど立派なものでもないが古民家といっている。NPOが運営しているが本当に立派な古民家だと運営も大変である。いい意味で適当な古民家がまちにあり、日本人にとってはそれ程魅力的でなくても外国人に人気になっているので、そういう感じでやっていくのもいいのかもしれない。農家の家は結構しっかりしているのだから、それを活用していくのもいいかもしれない。

嶋田会長：観光資源ということだが、以前栃木県の大谷博物館に行ったことがある。今までは観光資源ではなかったが、バスが何台も連れてくるような観光名所になっている。これもSNSなどの効果だが、蓮田も何もない訳ではないので、こういったソーシャルメディアを活用していくことでスイッチが入っていくことも考えられる。各委員会から色々な意見が出たが、「ひのでや」の「はまぐりラーメン」は食ベログで3.5以上の評価をキープしておりこれはすごいことだと思っている。また、呉汁の話もでたが、残念ながらB級グルメができる前で時期が早かった面もある。呉汁も味噌汁と何が違って、また簡単なようであるが実はこれだけの手間がかかっているということを手く説明できればいいのだと思う。商工会の青年部の周年事業の乾杯で呉汁を飲んだことがあるが、何の説明もない中で乾杯したので皆怪訝な様子だった。蓮田の特産であるということの説明してから飲めばよかったという笑い話などもあった。また、話が太谷に戻るが太谷博物館の横に太谷平和観音があってその説明書きの歴史年表に關山式、黒浜式という文字があったが、蓮田にゆかりのない人にとってはただの文字にしか見えない。蓮田が実はすごいということが中々知られておらずもったいない話だと感じた。また、以前旅行会社に勤めていたが、埼玉県に宿泊したいという人はあまりいなかった。千葉にはディズニーランドがあるが、蓮田から直行バスを出せば宿泊す

るひとも増えるのではないかという突拍子のないことを考えたこともある。また、ヒガハスや武州鉄道はもう少しフォーカスされてもよいのではないかと感じている。

また、蓮田には寅子石というちょっとグロテスクな話がある。簡単に説明すると昔美人な女性がいて、大勢の男性が思いを寄せたが、女性はその中で1人を選ばず自殺してしまい、その女性の肉をみんなに食べてもらうという話である。

寺内課長：武州鉄道跡について簡単に説明させていただきたい。武州鉄道の蓮田駅は蓮田駅東口の駐輪場のところにあった。そして、公民館の裏から線路がでていて住宅地を岩槻方面に行き、神亀酒造さんの近辺の森の方にカーブしていった旧122号線の材木屋さんだったと思うが、その中に馬込駅があった。そして、岩槻の方に向かっていくと畑の中に線路跡がある。航空写真でみれば線路の状況がわかると思う。ファンのひとは興味があって見に来ていると思う。ただ、知らない人にとっては分からない。せっかくのいい素材なので工夫あればいいのかなと思う。また、黒浜貝塚の土器は、関山式土器、黒浜式土器という順番だが考古学上では年代を知るものさしとなる標識土器となっている。1つのまちで2つの標識土器をもっているところは余りなく、売り方によってはいいのかもしれない。マニアにとってはぴったりはまるが、知らない人にとっては何のことかという感じかもしれない。また、芥川龍之介の撰文碑がある。これは日本で唯一の龍之介の撰文碑だが、文学ファン以外にとっては単なる石碑かもしれない。先ほどの寅子石も板石塔婆で、県下で第2番目の大きさであるが、板石塔婆の本場は関東地方で、その中でも埼玉県は優れているところなので、県内2位ということはおそらく全国で2位ということになると思う。先ほどの伝説とともに浄土真宗の高田派の聖地となっている。ちゃんと巡礼にも来ていて、お寺のパンフレットには貴重な供養塔として掲載もされているようだ。このように歴史・文化・芸術には実はすごいものがあるが、一般受けさせるためには何かが必要だと思う。また、備前堤は伊奈町が売り出している。伊奈備前守忠次が江戸時代に土木工事の主体となって水の管理をしていた。見沼代用水はその後和歌山から呼んだ技師により突貫工事で作られたもので、江戸時代のかんがい工事の2つのをあとを辿ることができる。

嶋田会長：テレビの番組ではないが、寅子石を引っこ抜いてみるみたいな企画があったら面白いのではないかと感じる。また、撰文碑だが、当時はコピーとかがないので直筆の書を石に張り付けてのみで彫ったのだと思う。もしコピーの控えがあればものすごく価値のあるものになっているのだと思う。

嶋田会長：色々話が出てくる中で1つだけでも話が広がっていく。先ほど齋藤委員から居住地として売っていくという話もあったがそれもブランド化の1つだと思う。また、金子委員から梨を扱っていながら最近まで商工会の梨アイスを知らなかったとの話があったが、やはり上手くPRができていないことだと思う。

嶋田会長：各委員から意見をいただいたが、蓮田に長く住んでいる人から意見をいただ

くと、どうしても固定観念が入ってしまう。そこで、蓮田に在住でない人から、蓮田についての感想などを含めながら意見をいただきたい。

関口委員：呉汁の大豆の生産量とかはどのような感じなのか？

寺内課長：もともと呉汁の大豆を作るきっかけは、コメの転作で大豆を作ったのがきっかけで、平野の方で当初は結構生産量もあった。その大豆を利用して「はなみずきみそ」を作った。また、商工会の推奨品特産品の開発品として大豆を用いた饅頭などができた。2年くらいまでは観光協会イベント時などに呉汁を作っていたが、作る際の手間がかかるので現在はやっていない。

嶋田会長：限定した領域では輝いているものもあるが、それを外に発信していくにはやはり知恵が必要になってくるのだと思う。最終的には住んでもらうということにつなげていくことが市としてのブランドの着地点ということになるのだろうか。

寺内課長：もともとの提言の目的が人口増ということなので、住んでもらうことがこの協議会を設置した目的の1つである。ただし、それだけが目的でなく進み具合によって別の着地点に行き着いたとしてもそれはそれでよいと考えている。

嶋田会長：山田委員からも何かに絞っていった方がいいのではないかという話もあったが、今はそのための下地作りで様々な意見をいただく時間だと思っている。そして皆で情報を共有して最終的な目的に向かっていければいいのではないかと思う。  
ところで、サービスエリアについては東京オリンピックまでにはできるのだろうか。

寺内課長：オープンにはなると思う。テナントについてもおおむね決まってきていると聞いている。

嶋田会長：中はネクスの施設で、外は市の施設という認識でいいのだろうか。

山田政策調整課長：外に農産物直売所のようなものを作っていきたいと考えている。

寺内課長：今度できるサービスエリアは高速利用者だけでなく、外からの人も利用してもらおうという考えなので、テナントの中に野菜だけでなく肉や魚なども扱ってスーパー的な利用もできるようになると聞いている。駐車場も海老名サービスエリアと同程度くらい駐車できると聞いている。

岩岸委員：蓮田サービスエリアはいつも混んでいてあまり評判がよくないと聞いている。いつも渋滞しているイメージがついている。

寺内課長：最終的にはスマートインターチェンジもでき4方向から出入りができるようになる。サービスエリアを通過するだけでなくそこから外に出てもらって市内で楽しんでもらおうという試みもあるようである。

時光委員：地域ということ意識しだすのはいつ頃かと考えると小中学生の時と仕事をリタイアした元気な高齢者になって意識するようになるのではないかと。地域の発展を担っていけるようなイベントなどを作っていけるとよいのではないかと。

関口委員：ストーリーや背景的なものがあつたほうがいいという話を最初にしたが、呉汁や梨などの話を聞いて、今何もないところから、何かを生み出していくプロセスを踏みながらブランド化をしていくのもおもしろいのではないかと感じた。

諸 委員：蓮田マラソンは外からの参加者も多いのか。

嶋田会長：外からの参加者も大勢いる。できるだけ外からの参加者が多くなるように企画している。

諸 委員：蓮田を知ってもらうきっかけづくりとして利用できるのではないかと。歴史・文化・芸術なども単体ではなく組み合わせることで何かおもしろいものができるのではないかと感じた。

岩岸委員：蓮田には色々な素材があるので、何か仕掛けはできるのではないかと。やはり観光地点の入込数が実績としてあがっていない。観光地点がないのかと感じてしまう。また、観光入込客調査を見るとイベントも2万人近く減っている。何か減った理由があるのかなと感じてしまう。

事務局：イベントの人数は、さくらまつり、市民まつり、雅楽谷の森フェスティバルのイベントの参加者数を報告している。昨年に比べて減少したのは天候の影響で参加者数が減少したためである。

岩岸委員：天候で影響されてしまう部分はあると思うが、もう少し多くのイベントを含めて報告したほうがよいのではないかと。客観的に数字があると大勢の人が来ていると印象を与えることができると思う。もう少し戦略的にやっていった方がイメージ的にも何かやっているんだなという印象を持ってもらえるのではないかと。

斎藤委員：蓮田といえばやはり梨だと思うので、蓮田でしかできない梨ができればいいと思っていたが、先ほどの梨の技術的な話を聞いているとちょっと難しいのかなとくじけてしまった。梨に限らず何か目玉を作っていけたらいいのではないかと。先日蓮田のキウイ農家が新聞に載っていたが、こういう頑張っている農家などと何か活動ができたらいいいのではないかと。ただ現実を知らずに夢ばかりを語っていても仕方がない。今あるもので対処していくのか、それともこれから何か品種改良してやっていくのか。何かやるというのもおおごとだし、でもやってみたいという気持ちもあり、もどかしさや悩ましさを感じた。

金子委員：斎藤委員から梨の話をいただき、農協として嬉しく感じた。また、呉汁は今

日の話を聞いて気になった。本当に食べてみたいと感じた。

嶋田会長：皆さんからそれぞれご意見・感想をいただき、次回の糧になると思う。水と緑と東京から近いということで映画のロケ地としてもいいのではないか。サービスエリアもできれば、撮影するにも東京から近いという利点と、水と緑も古民家もあり、ある程度撮影を手伝う人間もいるというのはプラスの側面なのではないかと思う。

寺内課長：実際に撮影したことのある監督の話では、都会の風景から時間をおかずに田舎の風景が撮れるという立地は、撮る側としてはありがたいという話だった。ここ数年ロケ地として使えそうな場所はないかといった照会も少しずつ増えてきている。

嶋田会長：事務局から何か連絡事項などはあるか。

事務局：特になし。

嶋田会長：それでは、議題についても終了し時間も来た。以上で今回の会議は終了とさせていただきます。

7 閉 会 (午後 5 時 15 分)